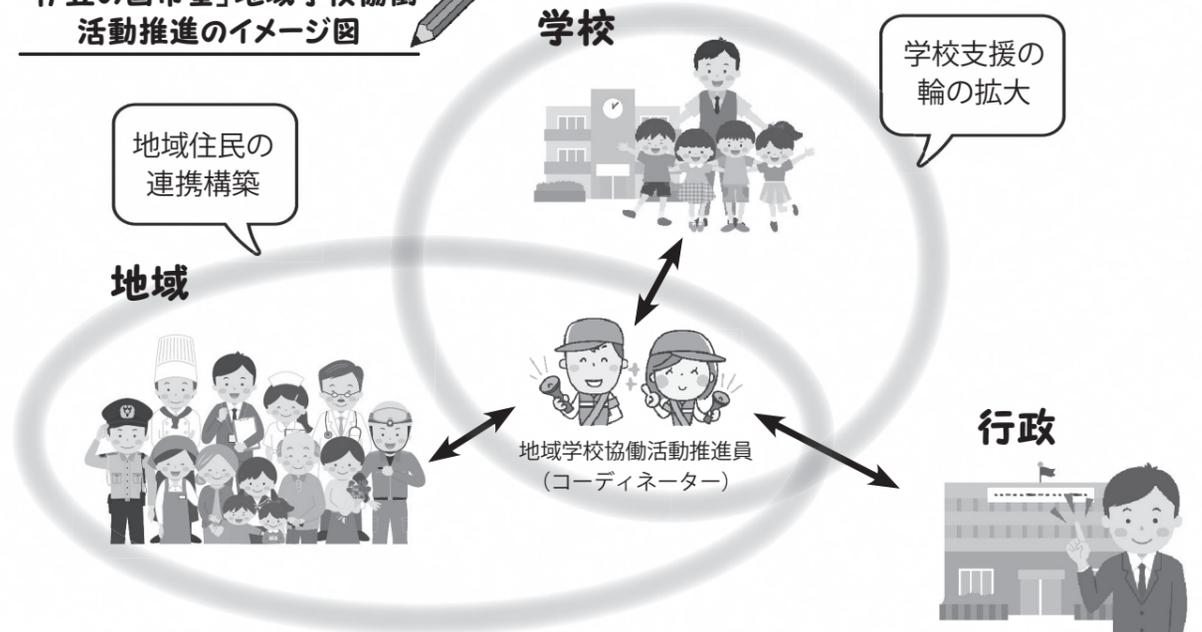


地域学校協働活動の取り組みが進められています!

生涯学習課 ☎ 055-948-1461

「伊豆の国市型」地域学校協働活動推進のイメージ図



●はじめに

伊豆の国市では、平成27年から社会教育委員会が「生涯学習の観点から『地域とともにある学校づくり』の推進について」の研究を始め、平成30年にモデル校の大仁北小学校で地域学校協働本部「北っ子応援ネットワーク」を発足しました。

その後は他の小学校にも拡大し、年内には市内6小学校すべてで地域学校協働本部が活動する予定です。市から委嘱された17名の地域学校協働活動推進員が各小学校を担当するコーディネーター(調整)役となり、学校・地域・行政をつなぎます。そして、協働の取り組みが学校を核とした地域づくりにも発展するよう「地域が学校を応援するという一方的な関係」ではなく、「お互いにメリットが生じます。Win・Winの関係」を目指しています。



▲大仁北小の環境委員と北っ子応援ネットワーク「花と緑と環境プロジェクトチーム」メンバーによる花苗の植え替え作業

コラム①

北っ子応援ネットワーク
(大仁北小学校)
代表 岩田康孝さん



北っ子応援ネットワークは、学校を中心にして地域の課題について議論する貴重な場と考えています。現在は、児童の通学時の交通安全と学校の環境整備について集中的に取り組んでいます。これからも、学校を応援し、よりよい地域にするために活動していきたいです。



▲各登校班のリーダーにPTA役員や見守りボランティア、教職員が同行して、通学路の危険箇所などを確認

●具体的な取り組み例

北っ子応援ネットワークでは、令和元年から「児童の通学時の安全確保」プロジェクトチームを作り、子どもたちのアンケート回答を参考に、小学校区の通学路について危険箇所の把握、課題の分析、対策の検討、危険の解消と、段階的に取り組みました。当初50件あった案件は行政などへの改善要望によって、半数以上が解消されています。

見守りボランティアの増員や青色防犯パトロールカーの定期巡回のほか、川の転落防止柵の設置や歩行帯の支障となっていた標識柱の移動などが実現したことで、児童だけでなく、幼児から高齢者まで幅広い年代の歩行者にとって、より安全な道に変わりました。また、以前から活動していた地域の協力者やネットワークの有志が、交通量の多い交差点を中心に登下校時の安全見守りを行っています。



▲青色防犯パトロールカー

●通学路のキケンを減らしています!



▲川の転落防止柵の延長



▲標識柱を移設して歩行スペースを確保

コラム②

長ニヤンネットワーク
(長岡南小学校)
担当推進員 石垣明子さん



各地で登下校中の児童が巻き込まれる痛ましい交通事故が後を絶ちません。学校・家庭の対策にも限界があり、地域力を活かした安全見守りが急務と考えます。昨年発足した長ニヤンネットワークでは、地域と学校が連携して実効性のある活動を進めるため、会の中に専門チームを結成しました。

現状把握から対策実行へ、すなわちP(プラン)計画 D(ドゥ)実行 C(チェック)評価 A(アクト)改善のCから始めるCAPDのサイクルに取り組みます。



●息の長い活動と するために

地域学校協働活動に携わる教職員・行政職員は、数年後には異動で活動から離れてしまいますが、地域住民は子どもたちという花の成長を支える土壌のように、いつまでもそこにあり続ける存在です。

息の長い活動をして、成果を蓄積していくために、地域や世代を超えて活動に関わる人脈を拡げていくことと、将来の地域・学校を支える人材を育てることが、これからの課題となります。各小学校の地域学校協働本部では、「子育てが一段落した」退職後も地域で活躍したい」そんな人の参画をお待ちしています。

あなたも家の前で子どもへの声掛け・見守りから始めてみませんか。決まった場所での見守りのほかに、散歩や仕事などに見守る「ながら見守り」も歓迎します。

